

相手の様子を
見ながら
こころを
推しはかる力

顔色をうかがう

記事内容はわたし個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

ご意見などの宛先 horikawassw@gmail.com



空気を読む。発達障害があると、この能力が弱い傾向にあり、人の気持ちを汲み取ることが難しいようです。

☆1

こころの中は誰にも分かりません。何とか知ろうとする科学が心理学です。

あるドラマで、表情のわずかな変化から心を読み、犯罪捜査に役立てていました。

多かれ少なかれ誰もが、言ったりしたりした結果で他人^{ひと}の心を推し量って自分の態度を決めながら生活しています。

★2

前回、オロオロさせて自分の言いなりを作る子にさせないため、コンプライアンスを持つことをお勧めしました。

発達課題のため捉え方に偏りがある子は別として、体面を気にし過ぎるおとなの育て方、たとえば子どものご機嫌取りで遊びに連れて行ったり、おもちゃを買い与えるようなジジババもコンプライアンス違反。子どもの将来を考えていないおとなです。

☆3

さて本題です。

子どもたちを見ていると、自分の考えを表に出さず、たとえ出しても、誰かが違う

ことを言うにあわててその子の意見に合わせの子がいます。周りに合わせてトラブルを避ける生き方を選んだようです。

これはこれで、手の付けられない甘えん坊以上に、自分らしさを失っている子だと思います。

★4

自分の意志でトイレに行き用を足すことはとても大事な生きる力（＝自立）です。

体内から排泄された瞬間、自分とは別のものになる。あまりに自然で誰も意識しないけれど、排泄とはそういうことです。

おそらくトイレ自立と、自分と他人を区別する力が備わる時期は同じです。その先に身内と他人との区別が生まれ、さらには自分を意識するようになるのです。障害がある人を除けば、これが逆転することはありません。

トイレ自立の頃、どう育てられたかによって、人の顔色ばかりうかがう生き方になる子になるのかも知れません。

今からでも遅すぎることはありません。

